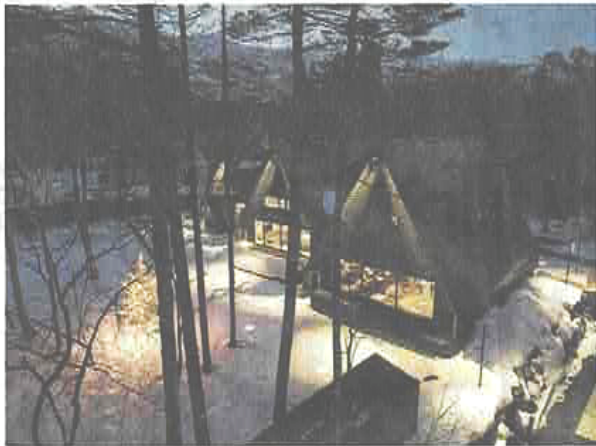


# 超高級リゾート、日本開拓

## シンガポールや香港系



カナリーホテルズが長野県白馬村に設けた超高級リゾート

## 訪日富裕層取り込み 沖縄離島や新潟スキー場

アジア系の超高級リゾートが相次いで日本に上陸する。シンガポールの「ソネバ」や香港の「ローズウッド」が沖縄県などへの進出を計画する。新型コロナウイルス禍の収束で訪日観光が回復するなか、外国人富裕層の宿泊需要を取り込む狙いだ。長引く円安もアジア資本の進出の追い風となっている。

ソネバホールディング（シンガポール）のブルース・ス（CEO）が日本経済新聞記者に、ソネバはモルディアブや

### アジアの超高級リゾートが日本進出

<b>企業名</b>	ソネバ(シンガポール)
<b>2027年にも沖縄県の離島と新潟県妙高市で開業。1泊25万円超の見込み</b>	
<b>カナリーホテルズ(同上)</b>	
<b>22年に長野県白馬村で貸し切りリゾートを開業。1泊20万～80万円ほど</b>	
<b>ハンヤンツリー(同上)</b>	
<b>タイやモルディアブで展開。24年に京都、26年に神奈川県箱根町で開業</b>	
<b>ローズウッド(香港)</b>	
<b>三豊地所と組み24年に沖縄県宮古島に進出。1泊10万円超の見込み</b>	

だが、富裕層が好むリゾートと競争が激しい。ソネバはモルディアブと同様に、前年

タイなどで超高級リゾートを開業する。専用プール付きの客室などが特徴で富裕層に人気が高い。沖縄ではビーチ、妙高市ではスキーに訪れる外国人富裕層を主要な顧客に想定する。いずれも戸建

の外資による投資は活発だ。不動産サービス大手のジョーンズラングラサー（イギリス）によると、日本のホテルへの外国企業

の投資額は22年に前年比約6倍の1625億円となり、コロナ禍前の19年の9割強の水準まで回復した。23年1～6月は1788億円で、前年同期を下回るペースで増えている。

シンガポールのカナリーホテルズは22年12月、白馬村に貸し切り宿泊施設を開業した。料金は時

目立つ。香港を拠点とするロイヤルウッズホテルズは2021年に沖縄県豊後町でリゾートを開業。物件を所有する三豊地所と運営委託契約を結んだ。同様のウィラからなり1泊10万円超に外資にとっては不動産を保持しやすくなる見込みだ。

は開発の活性化で、不動産価格や物価が上昇している。

政府は3月、23～25年の観光立国推進基本計画を閣議決定し、地方への観光客を呼び込む方針を掲げた。買値の高いリゾート開発に関する規制を緩和し、地域ごとに施策の床面積の上限や

「パンクティ」も関係建設、山口県 塚田 隆